

# 全国鳥類繁殖分布調査

## ニュースレター 第13号

2018年 10月 1日



ゴイサギ (湯浅芳彦)

### 分布の縮小した鳥・拡大した鳥

繁殖期が終わり、調査データが続々と集まっています。現時点で1,592コースを調査することができました。まだ調査結果をお送りいただいている方は、以下のページから <http://www.bird-atlas.jp/mpmailec/form.cgi> 情報をお送りください。

ここまでのデータから分布の縮小している種、拡大している種をまとめて、以下にご報告します。

#### 分布の縮小した鳥

調査コースの変更が軽微で前回の調査と比較可能な情報のうち、50コース以上で記録がある種について分布の増減をまとめ、上位種を表1に示しました。

分布の縮小した種では上位10種にゴイサギ、ヤマセミ、コサギが含まれるなど、小型の魚食性の鳥が目につきました。

また、5位にビンズイ、11位にメボソムシクイ、13位にウソと標高の高いところに生息する鳥に減っている種が多いことも気になるところでした。

3位にオナガが入っているのは普通種だけに意外な結果でした。東京都の1kmメッシュの詳細調査でも減少していたので、注意深く見ていきたいと思えます。

#### 分布の拡大した鳥

分布の拡大した鳥は、ガビチョウなどの外来鳥、カワウなどの大型の魚食性の鳥、サンショウクイなどの夏鳥や森の鳥が目立ち、昨年までの結果と大きな違いはありませんでした。去年までは記録数が少なく、増減傾向がわからなかったキバシリが、5位に入っていたのが、今年の新しい結果でしたが、これも森林性の鳥である点では、昨年までの全体の傾向と一致しています。キバシリ

表1 分布の増減上位10種

縮小				拡大			
種名	1997 -2002	2016 -18	増減率	種名	1997 -2002	2016 -18	増減率
ゴイサギ	101	46	-54	ガビチョウ	7	136	1843
ヤマセミ	49	28	-43	サンショウクイ	57	302	430
オナガ	39	23	-41	カワウ	24	122	408
コヨシキリ	77	46	-40	ソウシチョウ	26	124	377
ビンズイ	83	50	-40	キバシリ	20	47	135
バン	47	29	-38	ミサゴ	30	70	133
コサギ	79	50	-37	サンコウチョウ	120	262	118
コマドリ	77	49	-36	ダイサギ	61	131	115
コシアカツバメ	39	26	-33	クロジ	37	76	105
ハシブトガラ	117	78	-33	アオバト	232	475	105

が今回記録できなかった場所(●), 新たに記録された場所(●)を図1に示すと、北海道は増減ともにあり、明確な変化はありませんでしたが、それ以外の地域では、新たに記録された場所が目立ちました。

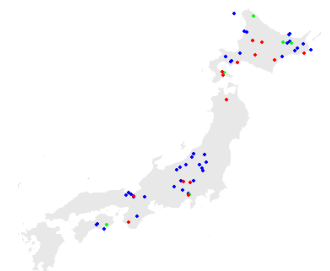


図1 キバシリの分布の変化。  
●:今回新たに記録, ●:両方記録, ●:記録されず

#### 結果送付ください

まだ、記録地点数が少なく増減が判定できない種もいますし、情報が増えてくれば増減の原因もわかるかもしれません。現地調査、アンケートの結果の送付、よろしく願いいたします。

# 繁殖期の亜種リュウキュウサンショウクイと亜種サンショウクイの分布

亜種サンショウクイと亜種リュウキュウサンショウクイがともに分布を拡げていました。亜種リュウキュウサンショウクイは関東、近畿、四国、九州・沖縄、計17都府県で繁殖期に確認されました。



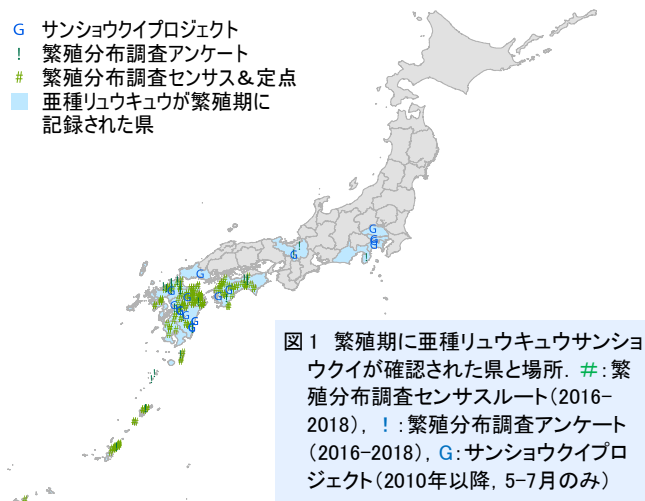
サンショウクイ (矢田新平)

亜種サンショウクイと亜種リュウキュウサンショウクイの両方が個体数を増やし、分布も広げつつあります。バードリサーチでサンショウクイの情報を集める「サンショウクイプロジェクト」を始めた2010年頃は、亜種サンショウクイは個体数が減少している、という認識で、2006年度版の環境省のレッドリストでは絶滅危惧Ⅱ類に指定されています。そして、亜種サンショウクイがいなくなって空いたところに亜種リュウキュウサンショウクイが入っているのではないかと、また、もともと南方系の鳥である亜種リュウキュウサンショウクイの分布がどのくらいの速度でどこまで広まっていくのか、といったことに注目していたのですが、まさかこんなに亜種サンショウクイが盛り返すとは予想していませんでした。

これまでに何度か、亜種リュウキュウサンショウクイの分布については、スナップショットを報告していますが(三上・植田 2011など)、その多くが越冬期の記録をもとにしたものでした。今回は繁殖分布調査のデータをもとに、サンショウクイ2亜種の繁殖期の分布が現在どうなっているのかをお知らせします。せっかくですので、繁殖分布調査と、バードリサーチが行なっている「サンショウクイプロジェクト」の両方の情報を統合してみたいと思います。

## 亜種リュウキュウサンショウクイの現状

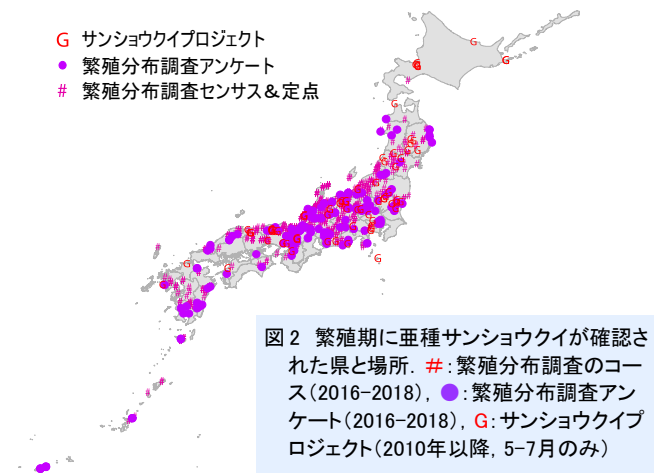
図1には、繁殖期に「亜種リュウキュウサンショウクイ」の生息が確認された場所を示しました。関東、近畿、四国、九州・沖縄、計17都府県で繁殖期に確認されています。ただし、これらのうち、京都、滋賀、埼玉の例はいずれも通過個体の可能性もある、という報告で、東京の記録は繁殖行動は確認されていませんが6月の観察例です。これまでに越冬期の確実な生息記録は26県から報告されていますが、越冬のみの県(大阪、兵庫、奈



良、和歌山、岡山、島根、徳島など)でもひよつとしたら繁殖しているかもしれません。もし情報をお持ちの方は、お知らせいただくと嬉しいです。なお、静岡や神奈川では、越冬期に記録されるようになった数年後から繁殖に関する観察が報告され始めました。

## 亜種サンショウクイの現状

繁殖期の亜種サンショウクイは、ほぼ全ての都道府県で5-7月の間に記録されています(図2)。亜種リュウキュウサンショウクイが元々生息していた、あるいは記録されるようになって久しい九州全域と四国西部においても、亜種サンショウクイの点がたくさん記録されています。これらについては、1) 亜種リュウキュウサンショウクイとの区別が不明なまま、“種サンショウクイ”として記録されているものが混じっている、2) 渡り途中の移動個体が記録された、3) 実は本当に亜種サンショウクイである、など、いずれの可能性もありえます。とりわけラインセンサス中など、ちょっと声を聞いただけでは識別が難しいこともあるかもしれません。亜種間陣取り合戦を正確に実況するのはなかなか難しいみたいです。



本題とはちょっとずれますが、図2にもありますように、実は北海道でも亜種サンショウクイはたびたび記録されています。大陸で繁殖するサンショウクイもいますので、北海道の記録の多くは通過個体ではないかと考えられます。ロシアのウスリー地方の記載(Panov 1973)には「渡りは5月上旬いっぱい続く」とあります。ただし、近年は道東で繁殖活動が記録されている(川崎ほか 2014)ので、注意が必要です。ロシアではケショウヤナギ、ナラ類、ハンノキ、コバノシラカンバなどの落葉樹林で営巢した記録があり(Panov 1973, Nazarov 2004)、道東の記録ではカシワのコサメビタキの巣にちょっかいを出していたようです(川崎ほか 2014)。

## 記録のコツ

サンショウクイは、声が特徴的で、生息していれば記録されやすい鳥だと思われまます。繁殖期は比較的高いところの枝に営巢し、飛翔性昆虫や樹冠の葉の裏側にいる虫を探す、という、林冠の住民とでもいうような生活をしています。写真を撮ろうとすると、お腹ばかり写りがちです。識別ポイントは額の白斑の大きさや背中の色ですが、亜種リュウキュウサンショウクイは胸のまわりが黒っぽいので、識別できることがあります。また、梢にとまっている時も声を出しますが、大抵は、飛び回りながら「ピリリリ、ピリリリ」と鳴きます。特に、繁殖地に渡来した直後は、何か線が描いてあるんじゃないか、というくらい、お気に入りの樹頂から樹頂へと、鳴きながら飛んで何度も行き来します。そのため、「ああ、行っちゃった」と諦めず、鳴き声が聞こえた場所にICレコーダをしばらく置いておくと、再び飛来して、録音のチャンスが来ることがあります。そうやって録音して、フリーソフトでスペクトログラムを作成した例が図3です。

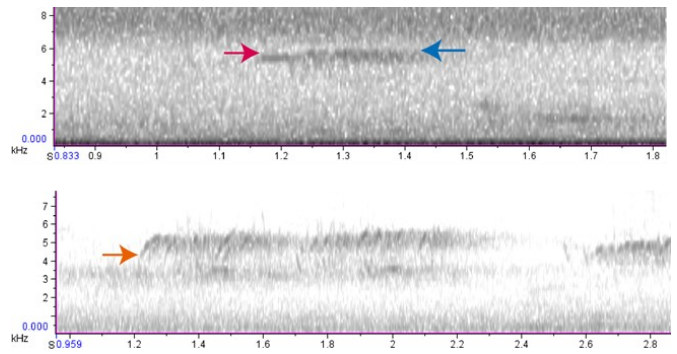


図3 上：亜種リュウキュウサンショウクイ(熊本県阿蘇市, 2017年7月15日)。車が通る音も入っていてお世辞にも美麗とはいえないスペクトログラムだが、最初のピーク(赤い矢印)の周波数(5657kHz)と最後のピークの周波数(5756kHz)の差[赤-青]が小さく、単純で平坦気味な「ピリリリ」で、かつ、節を通じて高い音で鳴いていることがわかる。下：亜種サンショウクイ(岩手県栗石町, 2018年5月23日)。2羽が鳴き交わしながら飛んでいるところをMP3モードで録音したもの。このように2羽の声が重なっていても、1つ目の「ピリリリ」の先頭の周波数(オレンジの矢印, 4336kHz)が低く(=尻上がりに聞こえる)、節もリズムカルであることから亜種サンショウクイと判定できる。判定基準は三上・植田(2016)による。

撮影や録音をしてみたものの、自分ではよくわからない、解析できない、という方は、撮影画像や録音ファイルを送っていただければ、判定にご協力します(わからないこともあります、ご容赦ください)。

データ送付先: [katsura.m.kawano@gmail.com](mailto:katsura.m.kawano@gmail.com)

【バードリサーチ 三上かつら】

## ■情報はこちらまで

繁殖分布調査アンケート <http://bird-atlas.jp/send.html>

サンショウクイプロジェクト

[http://www.bird-research.jp/1\\_katsudo/sanshokui/](http://www.bird-research.jp/1_katsudo/sanshokui/)

## 引用文献

- 川崎康弘・鈴木美利里・花田行博(2014) 北海道で観察されたサンショウクイ *Pericrocotus divaricatus divaricatus* とコサメビタキ *Muscicapa dauurica* による同一巣へ巣材持ち込み行動. *Strix* 30: 149-155.
- 三上かつら・植田睦之(2011) 西日本におけるリュウキュウサンショウクイの分布拡大. *Bird Research* 7: A33-A44.
- 三上かつら・植田睦之(2016) サンショウクイ 2 亜種の音声の違いと判別法. *Bird Research* 12: T1-T8.
- Nazarov YN (2004) Ptitsy goroda Vladivostoka i ego okrestnoctei. Izdatel'stvo Dal'nevostochnogo universiteta, Vladivostok. [原文はロシア語, 極東鳥類研究会(2007)極東の鳥類24より引用]
- Panov EN (1973) The Birds of South Ussuriland:(Fauna, Biology, Behaviour). [原文はロシア語, 極東鳥類研究会(1992)極東の鳥類13より引用]



# ウグイスの分布拡大とホトトギス

ウグイスが低地で分布を拡大させています。そのウグイス専門に托卵するホトトギスの分布の変化を調べてみました。ホトトギスも分布を拡大しており、その拡大はウグイスを追従するようになっていましたが、現時点では、ウグイスがいても樹木の少ない場所にはホトトギスは生息できないようでした。



ウグイス (神尾雄二)

植田はカツ井がなければ生きていくことができません。そして、佐藤はラーメンがなければ……。同様にウグイスがいなければ生きていけない鳥がいます。ホトトギスです。カッコウはモズやオオヨシキリやオナガに、ツツドリはセンダイムシクイやエゾムシクイに、ジュウイチはコルリやオオルリやルビタキに托卵します。しかしホトトギスはウグイスだけに托卵するからです。

6ページで紹介している「愛知県鳥類生息調査」には、ウグイスの定着とほぼ時期を同じくして、ホトトギスが定着した調査地がありました。これはホトトギスがウグイスだけに托卵するため、ウグイスがいないと生息できないからだと思われます。現在、東京では東京都繁殖分布調査を行なっています。ニュースレターの12号に書いたように、ウグイスの低地部への分布拡大がみられています。そこで、それに対してホトトギスの分布がどうなっているのか見てみました。その結果、ウグイスと同様に分布を拡げているものの、環境の問題か、タイムラグなのか現時点ではウグイスよりもかなり分布が狭いことがわかりました。

## 1kmメッシュで東京の鳥を調べる

東京都繁殖分布調査は1kmメッシュで東京の鳥の分布を調べる調査です。2020年完成を目指して2017年から調査を行なっていますが、1970年代と1990年代にも同様の調査が行なわれています。過去の調査では342メッシュに設定した調査コースで繁殖期に2回の調査を行なうとともに、それ以外のメッシュの鳥についてもアンケート形式で情報を収集し、分布図を描いています。現時点では以前現地調査が行なわれたメッシュのうち、232メッシュの調査が終了しています。また、今回はアンケートだけではなく、できるだけ多くのメッシュにコースを設定して、同様の現地調査をすることを目指し、あわ

せて657メッシュのデータが集まっています。しかし東京は広く、まだまだ調査できていないメッシュがたくさんあります。東京にお住まいの方、お勤めの方、ぜひ調査にご参加ください。

調査のページはこちら <http://www.bird-atlas.jp/tokyo/>

## ウグイスとホトトギスの分布拡大

集まったデータの中からウグイスとホトトギスの分布の変化を示してみました。1990年代にも現地調査が行なわれたメッシュについては、今回との変化を「今回新たに記録された場所」「両年代とも記録された場所」「今回記録できなくなった場所」に分けて表示しました。また、アンケート情報等についても、1990年代のもの、今回のものを示しました。

ウグイスの分布は1990年代は、ほぼ山地の樹林が連続している場所だけだったのが、現在は市街地の小規模な緑地にも拡がっていました(図1)。そしてホトトギスの分布も拡がっていました。ホトトギスの分布はすべてウグイスの分布に含まれており、托卵相手のウグイスが

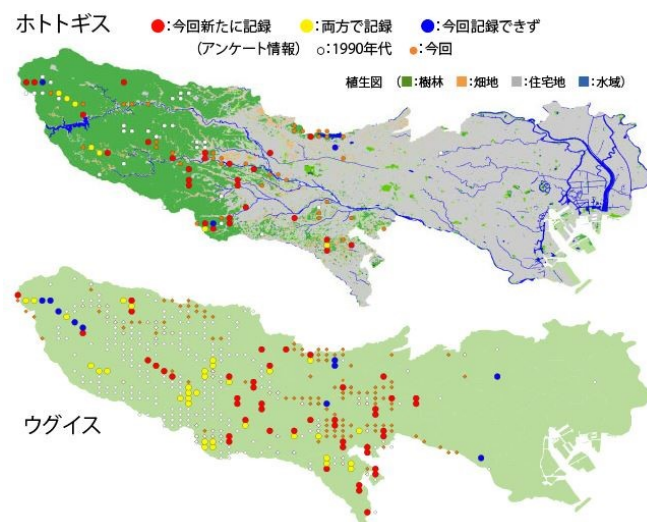


図1 東京都のウグイスの分布の変化とホトトギスの分布の変化



ホトトギス（齊藤 誠）と増加している夏鳥のサンショウクイ（平城常雄），サンコウチョウ（豊田敏則）

いない場所ではホトトギスは生息できないようです。ただ、ホトトギスの分布域はウグイスの分布域の中でも樹林がある程度連続した場所に限られていました。

なぜホトトギスの分布はこのように限られているのでしょうか？ その理由の1つとしては、ウグイスの数が考えられます。住宅地の小さな緑地はウグイスの個体数が少なく、ホトトギスが繁殖するには不十分な可能性があります。ただし、河川沿いの地域はウグイスの数は多いのですが、ホトトギスは生息しておらず、それだけでは説明できません。

ホトトギスが分布するには托卵相手がいることだけでなく、自身の食物確保等のための生息環境も重要です。ホトトギスが開けた場所を嫌がるとか、小規模な緑地には食物が少ないなどの理由で、ウグイスよりもホトトギスの方が環境選択の幅が狭く、分布を上げられないのでしょうか？ 今後、調べていきたいと思います。

### ホトトギスはなぜ北海道にいない？

東京では、ウグイスの分布とホトトギスの分布は完全には重なっていませんでしたが、もっと広い範囲でみるとどうなのでしょう？ 現在実施している全国鳥類繁殖分布調査の結果を比較してみました。ある程度分布は一致していましたが、北海道の分布に大きな違いがありました(図2)。ウグイスがほぼ全域に分布しているのに対し(空白部分は調査がまだ実施できていないという理由が大きいですが)、ホトトギスは南部のみです。北海道のウグイスの個体数が南部以外は少ないということはありませんので、ウグイスが原因とは考えにくいですが。また、樹林は北の地域にも広がっているので樹林の分布では、説明できそうにありません。なぜもっと分布が広がらないのでしょうか。

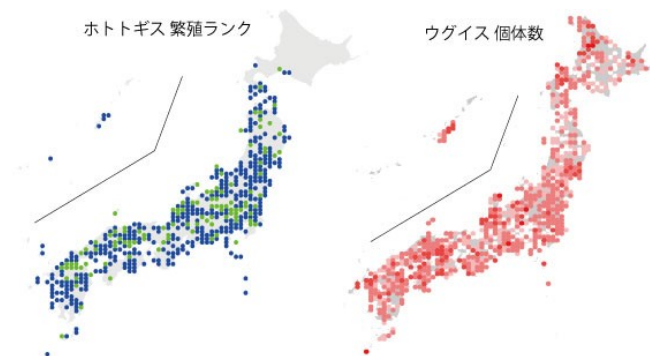


図2 ホトトギスの分布(●:繁殖の可能性あり, ●:生息を確認)とウグイスの分布(赤の濃い場所が個体数の多い場所を示す)

### 今後の分布変化に注目

キビタキやサンショウクイ、サンコウチョウにアカショウビン。一時激減が指摘された夏鳥たちが分布を回復させています(<http://www.bird-atlas.jp/news/bunpu16-17.pdf>)。ホトトギスも夏鳥ですので、分布拡大の一因にこうした夏鳥の回復も影響しているのかもしれませんが。そうだとすると、これから分布が広がってくるのかもしれませんが。ウグイスの分布拡大とホトトギスの分布拡大にはタイムラグがあって、今後ギャップが小さくなっていくのでしょうか？

また、これまではウグイスやガビチョウなども、連続的な緑地に生息する鳥で、市街地の小規模な緑地には生息しない鳥とわれてきました。しかし、現在はそうした場所でも生息するようになってきました。鳥の生息環境は固定されたものではなく、生息密度が高まったときに従来の生息環境から押し出された個体が出たり、若い個体などが新たな場所で繁殖をはじめ、そこで成功することなどによって時代とともに変わっていきます。今後のホトトギスの分布に注目していきたいと思います。

【植田睦之・佐藤望(バードリサーチ)】



## 書籍紹介： 愛知県と岡山県の鳥類目録

愛知県鳥類生息調査(1967-2016)50年の記録

愛知県環境部自然環境課

愛知県29地点で1967年から行なわれている調査の結果をまとめた力作です。全県での傾向、調査地それぞれの状況や鳥の変化についてまとめられています。たくさん興味深い記載があるのですが、ウグイスが繁殖しはじめたタイミングとほぼ同時にホトギスが定着していたというデータは特に興味深く見ました。ウグイス定着後からホトギスの定着までタイムラグがないとは、愛知のホトギス、レスポンス速いですね。



岡山の野鳥たち ～むかし・いま・みらい～

倉敷市立自然史博物館

倉敷市立自然史博物館で開催された特別展の図録です。岡山の鳥の現状やこれまでの変化について種別、分類別、場所別などの切り口で紹介されています。大型の魚食性の鳥やアオバトの増加や、コアジサシやヤマセミ、アオバズクの減少など、「全国鳥類繁殖分布」の結果とも共通する部分が多く、ちょっと安心しました。



【バードリサーチ 植田睦之】

## 環境省モニタリングサイト1000 交流会/講習会の案内

モニタリングサイト1000では、毎年、調査者の交流と、新調査員のリクルートを目的として、調査交流会/講習会を開催しています。今年は東京、京都、鹿児島で開催します。全国鳥類繁殖分布調査の成果についてもお話ししますので、お近くの方はぜひいらしてください。

### モニタリングサイト1000 調査研修会

【主催】 日本野鳥の会・バードリサーチ

【開催場所】

<鹿児島県> 2018年10月20日(土)～21日(日)  
鹿児島県社会福祉センター(鹿児島市)&慈眼寺公園周辺

<京都府> 2018年11月3日(土)～4日(日)  
コープイン京都(中京区)&宝ヶ池公園周辺

<東京都> 2018年12月1日(土)～2日(日)  
日本野鳥の会事務所&国立科博附属自然教育園

※ 開催日時や場所等の詳細については、専用サイトにて情報配信いたします。以下のページをご覧ください。

<http://www.wbsj.org/mng/?p=987>

【内容】

初日 午後スタート

モニタリングサイト1000の事業概要と成果を紹介します。また、参加者による事例発表や情報交換の時間を

設けます(東京会場のみ内容が異なります)。

講義終了後:懇親会

2日目 午前中のみ

実際に野外に出て、鳥類のスポットセンサス法と簡易植生調査の実践します

【参加対象】

調査に興味のある方(経験不問)

(定員は会場の都合で30～40人程度まで。定員を超えた場合は参加できないことがあります)

申し込み:[http://www.bird-research.jp/1\\_event/moni1000.html](http://www.bird-research.jp/1_event/moni1000.html)

【参加費】

無料(ただし入園料や懇親会は実費を徴収)。

お問い合わせ先

日本野鳥の会 モニタリングサイト1000担当  
〒141-0031 品川区西五反田3-9-23丸和ビル

Tel: 03-5436-2633 Fax: 03-5436-2635

Mail: [moni@wbsj.org](mailto:moni@wbsj.org)

# セグロカッコウの情報をお寄せください

現地調査やアンケート調査でセグロカッコウがしばしば記録されています。現在は「旅鳥」として記録していますが、近年、記録が増え、長期滞在記録もでてきているので、もしかするとすでに繁殖を開始しているかもしれません。そこで、セグロカッコウの記録の情報収集を始めました。



セグロカッコウ (川又利彦)

ジョウビタキ。そしてミヤマホオジロ。最近、日本で繁殖を始め、定着した鳥がいます。では、次に繁殖が始まる鳥は何だと思いませんか？ みなさん一言あると思いますが、ぼくの一押しはセグロカッコウです。

セグロカッコウは日本の近くでは中国やロシアで繁殖している鳥です。オウチュウの仲間、オナガ、アカモズなどに托卵することが知られており、宿主の大きさ・分類群・生息環境の多様さを考えると、様々な鳥に托卵する潜在能力がありそうです。これまでは迷鳥や数少ない旅鳥と言われていたセグロカッコウの記録が最近増えていて、もしかすると繁殖をしているかもしれないのです。

## 増えているセグロカッコウの記録

セグロカッコウの記録が増えているかどうかを明らかにするため、バードリサーチの野鳥記録システム「フィールドノート」に登録されたセグロカッコウの記録を期間別に集計してみました。同じ場所・同じ年の記録は1データとして、その件数をまとめると、2000年代前半までは、数例の記録しかなかったのが、2000年代後半から増え始め、その記録は5-6件と増加しました。そして2010年代後半は、まだ2019年を残しているにもかかわらず、最多の9件の情報が寄せられました。

さらに、環境省モニタリングサイト1000の調査でセグロカッコウが記録された地点数も第1期(2003-07年)と第2期(2008-12年)がともに3か所だったのに対して、第3期(2013-17年)には6か所と倍増しました。

これらの記録に全国鳥類繁殖分布調査のデータを加え、2010年以降のデータを図示すると、渡り通過ではなく「繁殖の可能性ありそう」な6月中旬以降のデータが集中している場所が大分県や島根県にありました

(図1)。これらの場所では、すでに繁殖を開始しているのかもしれません。



図1 2010年以降のセグロカッコウの記録。●: 6月中旬以降の記録。●: それ以前の記録

## 情報収集にご協力ください

そこで、セグロカッコウの情報収集を始めました。セグロカッコウの特徴的な声をお聞きになられている方はぜひ情報をお寄せください。繁殖期の長期の滞在記録は繁殖の可能性を示唆します。滞在記録をお持ちの方はその期間もお知らせください。情報はホームページ上の地図で位置を選択して送信いただくことができます。また、エクセルなどで情報をお持ちの方は、その記録をお送りいただくのも歓迎です。そうしたデータは植田宛てにメールでお送りください。よろしくお願いたします。  
(mj-ueta@bird-research.jp)

情報を送る <http://www.bird-atlas.jp/segurokakkou/sk.html>

【植田睦之(バードリサーチ)】

## 全国鳥類繁殖分布調査ニュースレター 第13号

2018年 10月1日 発行

編集: 植田睦之, 市塚友香, 大島理恵, 柏崎安男, 小峯昇, 藤田薫

© バードリサーチ・日本野鳥の会・日本自然保護協会・日本鳥類標識協会・山階鳥類研究所・環境省生物多様性センター

URL <http://www.bird-atlas.jp> <https://www.facebook.com/birdatlasjp> [https://twitter.com/bird\\_atlasjp](https://twitter.com/bird_atlasjp)